足立区教育委員会指導力向上中核校

渕江小学校　外国語活動・ 外国語科研究通信

第７号
令和５年 12 月

今年度第7回目となる外国語活動・外国語科の研究授業を 佐藤優佳教諭が行いました。協議会では、1年生の外国語活動の指導方法について協議を行いました。指導・講評では、文部科学省初等教育局視学官 直山木綿子先生よりご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成
～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：1年2組 担任　佐藤優佳 教諭
単元名：「Brown Bear Brown Bear What Do You See?」
指導講評： 文部科学省初等教育局視学官 直山木綿子先生より

〈研究経過報告〉

研究の視点について

視点1 表現を繰り返し使うための工夫

英語の歌や絵本の読み聞かせ等の活動を多く取り入れ、英語には日本語とは異なる独特のリズムがあることに気付かせたり、学級全体や友達と繰り返しやり取りすることで、児童が自信をもって思いを伝え、楽しんでやり取りができたりするようにする。また、絵本に出てくるフレーズだけでなく、自作の本に出てくる動物と色の組み合わせでも表現できるようチャレンジさせる。

視点2　絵本を使って目的や場面、状況等を明確にした言語活動の工夫

各単元や授業において、児童に活動の目的を明確にさせるとともに相手意識をもたせて活動させることで、児童一人一人がより積極的に活動に取り組むことができると考える。今回は自分のオリジナル絵本を作って、互いに紹介し合うというゴールを設定し、学習を進めていく。さらに、外国語でのやりとりを通じて、思いが伝わった時の嬉しさを児童に実感させたい。そのために、児童がお店屋さんとお客さんに分かれて、自分の好きな色を指定した動物に塗ってもらうという果物の単元も取り入れた活動を設定した。お店屋さん役の児童にお客さん役の児童が塗ってほしい色や動物を伝え、そのオリジナルの動物絵本が完成する達成感を味わうことで、「できた。」「伝わった。」という実感をもたせ、コミュニケーションの楽しさや嬉しさを実感させたい。

視点3　中間指導の充実

やりとりで児童が言いたいことを友達に伝えるために、言いたいけれど言えなかった表現を全体で共有し一緒に考える時間を設定した。中間指導を通して、児童のより良い表現や言い方を取り上げ、他の児童のモデルになるようにする。

〈授業者自評〉

・英語が初めての児童もいたが、楽しんで参加していた。
・英語が伝わったことを感じ、喜ぶ児童の姿があった。
・時間配分がうまくできなかった。
・中間指導で児童からの「やりたい！」という言葉に OK を出したことで、方向転換をした。

〈研究協議会〉

絵本の指導について

・「BROWN BEAR～」の指導の前に色の学習を行った。長くて言えない子供たちも言えるようになった。
・再現することが難しいと思った。音読の時間など隙間時間を使ったり、どのくらい指導したりしたのか。
・普段から絵本に親しむような環境作りがあった。
・めあての確認がよかった。

二人組でのやりとりについて

・英語が得意な児童とそうでない児童との組み合わせを考えていた。
・二人組での活動の時間配分はどうだったか。
・塗る動物の数は適切だったか。

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子先生**〉**

指導者の関わり方

・児童の声に耳を傾け、担任としてしっかりと受け入れていた。
・1 年生の素直な感想が素敵で、とても良い授業だった。

中間指導の在り方

・ピンク・黄色などの色や、「さようなら」という言葉の表現がわからなくなってしまった児童がいた。
全員で確認→質問した児童に言わせる
助けている児童もいた。
・何色使いにするかを考えると良い。塗り方も子供たち自身が学習していて、雑だった子が上手になっていた。
お店屋さんの児童が「What color do you like?」と聞くようになった。

振り返り・評価について

・子供たちは自分でやり遂げようという力がある。どこまで締めるか、どこまで放すかを考えることで、自分で考えて動くことができるようになってくる。
・授業時間が延びてしまったことは良いことではなかったが、実際子供たちは楽しく活動していた。文句が出るどころか、真ん中に集まった児童たちは自分の絵本を使って「ORANGE BIRD～」などと歌いだし、主体的に楽しむ姿が伺えた。
・3 人の児童が振り返りを発表した。騒いでいる児童もいたので、発表の声に耳を傾けさせる工夫があると良い。
・担任と児童の信頼関係ができているからこそのやり取りがたくさんあった。
・絵本の読み聞かせは圧巻。児童が上手に読めるとしっかりとほめていたことも良い。
・「ライオンじゃなくて LION」のジェスチャー付きの歌は、この場面においては必要ない。
・デモンストレーションに関しては、 教師と教師 → 教師と児童 → 児童と児童 という変化がよかった。

締めるところと緩めるところの難しさが大きな課題である。